

ねっとわーく network

Vol.203
2020.04



これからの社会で「リハビリ専門職」を
もっと輝かせるために～人財育成の秘密のレシピ～



これからの社会で「リハビリ専門職」をもっと輝かせるために～人財育成の秘密のレシピ～

「これから」の社会で輝くリハビリ専門職とは？

こんにちは。府中病院の理学療法室・作業療法室・言語療法室です。リハビリテーションとは、病気があったり、けがをしたり、年齢を重ねたとしても自分らしく住み慣れた所でいきいきと安全に生活できるように、あらゆる人々が協力しあって行う取り組みのことをいいます。これからの日本社会は、ますます高齢化しています。わたしたち「**リハビリ専門職**」である理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士にもとめられる役割はますます増え、大きく変化していきます。これからの時代、どのような「リハビリ専門職」が必要とされ、輝けるのでしょうか？

この記事では、府中病院の私達が考える、「これから」の社会で輝ける「リハビリ専門職」とは何か？と、そのような人財になるためのレシピをご紹介します。ぜひ最後までお付き合い下さい。



「これから」の社会で輝くリハビリ専門職の条件

これからの社会で輝ける「リハビリ専門職」の条件とは何でしょうか？それは、「**その人らしい、いきいきとした住まいでの生活を支援できること**」です。

なぜなら、これからは住み慣れた「住まい」での生活を支援することが求められているからです。その背景には、日本の高齢化が関係しています。簡単にいうと、病気やケガを予防し出来る限り「住まい」で生活する。

病気やケガをされた時は、病院などを利用しスムーズに「住まい」に戻る。

このような地域の仕組みを作っていきましょうという、国の取り組みが行われています。

なので、私たち「リハビリ専門職」には、できるかぎり「住まい」で幸せに生活できるように支援してあげて！と期待されているのです。しかし、ただ単に「住まい」で生活しているだけでは不十分です。「もう、歳やからあかんで…」「はやくお迎えがきてくれへんかなあ…」それでは困ります。自分らしく、いきいきとしていたほうがもっと素敵ですね。

こういうわけで、「その人らしい、いきいきとした住まいでの生活を支援できること」これが「これから」の社会で輝ける「リハビリ専門職」の必須条件です。

では、どのようにすればそのような「リハビリ専門職」になれるのでしょうか？

そのための、府中病院の理学療法室・作業療法室・言語療法室のレシピをご紹介します。

「これから」の社会で輝く リハビリ専門職のためのレシピ【1】

さっそくですが、1つ目のレシピです。

それは、「**スペシャリスト**」でありながら「**ジェネラリスト**」つまり専門的な知識を持ちながら、広い視点を持った「リハビリ専門職」を目指すことです。

なぜなら、専門職がお互いに力を合わせたほうがリハビリテーションの効果が高まるからです。

例えば、呼吸リハビリテーションでは運動するだけでなく、栄養をしっかりとって薬を併用して行ったほうが効果的であると言われています。



当院は、急性期病棟、回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟がある総合病院です。さらに、当法人には急性期病院だけでなく介護老人保健施設や回復期病院などさまざまな病院・施設があります。つまり、入院してから「住まい」での生活に至るまでトータルにサポートしている点が特徴です。「スペシャリスト」かつ「ジェネラリスト」な「リハビリ専門職」を志しておられる方にとっては、当法人のリハビリテーション部門はおもしろい経験の場だと思っています。例えば、当法人のリハビリテーション部門では、留学制度（といっても外国に行くわけではないのですが）があり、法人内の他の施設に半年～1年間、移籍する形で働くことができます。また、回復期病院で勤務しているセラピストが急性期病院を経験することもできます。もっとおもしろいのは、法人内のリハビリテーション部門のセラピストが領域の垣根を越えて各自の興味のある分野ごとに研究会グループを作っています。

例えば、「脳」のグループであれば「脳」に関連するリハビリテーションについて一緒に勉強したり、共同で研究したりしています。「テクノエイドグループ」であれば、新しい電動車いすについて調べたりしています。一人で勉強するよりも、みんなと一緒に話をすると、「へえ～、そんなこともあるんだあ～」ということに出会えるのが面白いところです。「でもそんなこと、私でもできるかな？」そんな不安な声が聞こえてきそうです。

では、2つ目のレシピをご紹介します。

「これから」の社会で輝く リハビリ専門職のためのレシピ【2】

では、「スペシャリスト」かつ「ジェネラリスト」な「リハビリ専門職」になるにはどうすればよいのでしょうか。2つ目のレシピは、「**目標をしっかりとつこと**」です。

なぜなら、目標がないのはカーナビの目的地を設定しないのと同じで、前に進めないからです。あのイチローは子供のころからプロ野球選手になるのが目標だったそうです。でも、誰もが彼のような目標を自分でたてられませんよね？



当法人のリハビリテーション部門では、キャリアラダーを採用しています。キャリアラダーとは、経験何年目でこういうことができているようになっていようね。といういわば「成長の道しるべ」のようなものです。例えば、2～3年目には、学生指導の一部ができるようになりましょう。といった感じです。

自分で目標を言語化し、先輩と相談してどうやったら達成できるか？そして達成できたかを相談します。

やってもらうとわかりますが、「あ、そうかあ」と気づき生まれることが私は有難く感じました。自分の事は意外と自分ではわかりません。オリンピック選手に必ずコーチがいるのはそのためです。自分の目標がはっきり分からない間は、とりあえずこの「道しるべ」と「コーチ」を頼りに進んでいきましょう。

このように一つ一つ目標を持って、一歩ずつますます良くなっていくことが大切です。

「目標を持つのは分かったけど、達成できるか自信がない」そんな不安な声が聞こえてきそうです。では、3つ目のレシピに進みましょう。

「これから」の社会で輝く リハビリ専門職のためのレシピ【3】

3つ目のレシピ、それは「**アウトプットする**」です。

なぜなら、「人に教えること」が最も学習が持続しやすいことが分かっているからです。

当法人のリハビリテーション部門に入職した新人さんは、しっかりと研修を受けます。その数は20回以上…。とても充実しています。しかし、受身の学習だけで終わってはもったいないです。私が良いなと思っているのが「事例検討会」です。この間も、事例検討会で2年目の理学療法士の後輩が、「この事例の、骨折のこういう治療のケースが分からなかったので調べてきました。」と論文をまとめたものをみんなに発表していてすごいなあと思いました。このように文献や勉強会で学んだことを、分かりやすく言語化して患者さんや他職種にも「説明する」ことを意識すると、よいアウトプットする学習になります。しかし、経験が浅い間は、「これで本当に合っているの?」「間違っていないかな?」という不安はつきものです。

当法人のリハビリテーション部門は、多種多様な病院・施設があるため、呼吸器疾患に詳しい人、認知症に詳しい人などが混在しているので、どんどん相談して専門知識を教えてください。なぜなら、それを「教えてくれる」先輩にとっても良い学習になっているのですから…。



では、最後に3つのレシピをまとめました。

①自分の職種にとどまらず、広い視点をもった「スペシャリスト」かつ「ジェネラリスト」を目指す。

②目標を定め、コーチングをしてもらい自信をつけていく。

③わからないところはどんどん相談し、わかりやすくアウトプットする。

そうすると、「その人らしい、いきいきとした住まいでの生活を支援できる」リハビリ専門職に近付きやすくなると思います。

いかがでしたか？でも、実はもう一つだけ大切な隠し味を紹介するのを忘れていました…。

最後に、少しだけ紹介したいと思います。

「これから」の社会で輝ける リハビリ専門職になるレシピ【隠し味】

最後の隠し味、それは「不安をふきとばし、勇気付けること」です。

なぜなら、不安な状態では学習がうまくできないことがわかっているからです。

お化け屋敷の中では、テスト勉強などできませんよね。

認知症でも、「不安」によって症状が悪化することも分かっています。

当部署では、新人セラピストには複数の先輩セラピストが教育担当として寄り添うことになっています。ある先輩に、新人さんへの指導で工夫しているところを聞いてみると、「新人さんの悩みや困りごとを複数の先輩と共有できるように心がけています。そのほうが困っていることをいろんな人から助けてあげやすいと思います。」「カンファレンスの時も、新人さんが相談しやすい席の配置を心掛けたりしています。」「1年目を終えた時には表彰状をあげました。」という答えが返ってきて、すばらしいなあと思いました。

人工知能やロボットに仕事が置き換わってしまう！と言われていますが、人を元気にできるのも人、人を育てるのも人なのかもしれません。

相手の立場を理解し、不安を吹き飛ばし勇気づけられる「人」である限り、どんな時代でも「輝ける」のだと思います。

リハビリテーションの技術は、まだまだ進化の途中です。地域の皆様の安全で幸せな生活のために貢献できる社会に必要とされる「リハビリ専門職」の仲間が広がっていくことを切に願っています。



新型コロナウイルス感染症の対策・面会禁止のお知らせ

【ご面会の方について】

面会禁止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、当院では入院されている患者さんへの感染予防を第一に考え、当面の間、原則として面会を禁止いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【ご来院の方について】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、**駅側玄関・南館玄関を閉鎖**しています。

西館玄関をご利用ください。
ご迷惑をおかけしますがご協力のほど
よろしくお願いいたします。

診療は通常通り行っています。



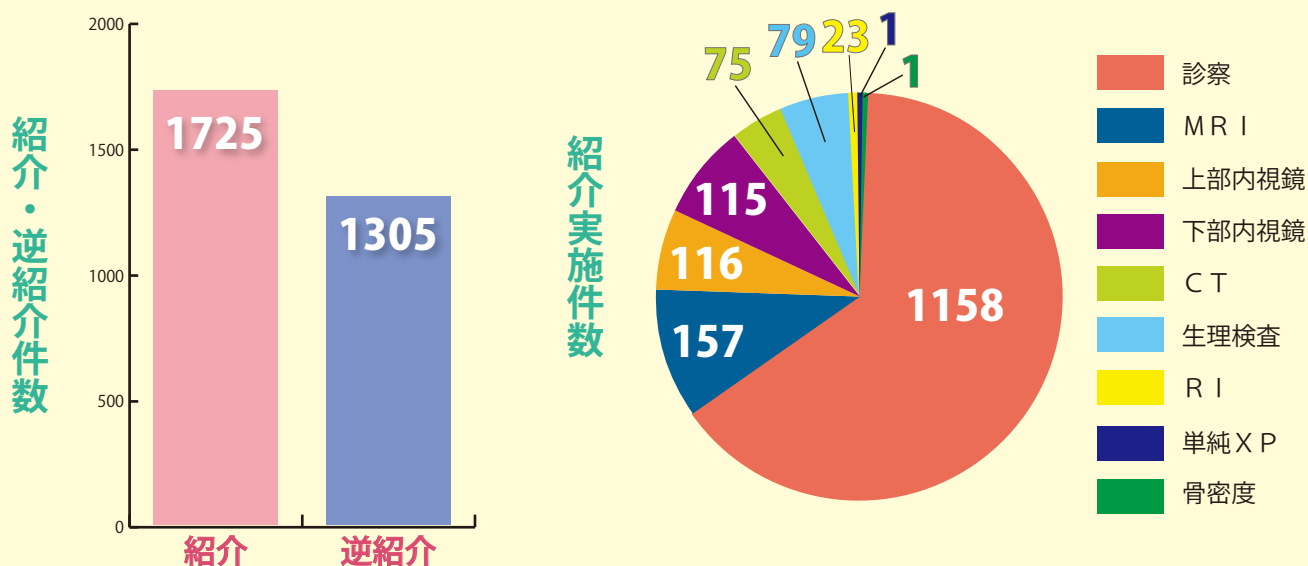
5月16日(土)開催予定の病診オープンカンファレンス～循環器内科～について

2020年5月16日(土)15時から予定しておりました病診オープンカンファレンス～循環器内科～が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。ご理解いただきますようお願いいたします。なお、病診オープンカンファレンス～循環器内科～の予定につきましては分かり次第ご案内いたします。

5月19日(火)開催予定の市民講座について

2020年5月19日(火)14時から予定しておりました市民講座が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。ご理解いただきますようお願いいたします。なお、2020年度の市民講座の予定につきましては分かり次第ご案内いたします。

紹介実績<2020年3月>



2020年4月・203号 ネットわーく

発行責任者：院長 竹内一浩
編集責任者：地域連携部 松田有裕
編集者：地域医療連携室 森舞子
〒594-0076 和泉市肥子町1丁目10番17号 府中病院 地域医療連携室
TEL：0725-40-2147 予約専用フリーダイヤル：0120-40-2147
FAX：0725-40-2148 E-mail：chiikirenkei@fh.seichokai.or.jp

私たちの理念
愛の医療と福祉の実現。
地域と職員と共に栄えるチーム
Yu・ki・to・do・ku ゆき届いたサービス

私たちの基本方針
チームとして、そしてパートナーとして
チャレンジします。
3つのベストにチャレンジします。